

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201348		
法人名	有限会社グループホームかいぜ		
事業所名	グループホームかいぜ	ユニット名	
所在地	長崎県佐世保市皆瀬町270-12		
自己評価作成日	平成26年10月1日	評価結果市町村受理日	平成25年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成26年12月1日	評価確定日	平成26年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々のペースで思い思いに過ごして頂き穏やかなゆたったりした生活を支援しています。地域のボランティアの方や保育園の園児さんたちと定期的に交流を持ち入居者の方々は楽しく毎日をおくっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームかいぜ”では、施設長と管理者、職員のチームワークが抜群で、医療連携も行いながら“一人ひとりの人格個性を尊重し支援致します”と言う理念の実践が続いている。家族や地域の方の協力も頂き、地域行事にも参加しているが、地域の方の高齢化に伴い、ホーム内で行われていた「ちょっとよってみゆう会」での地域の方との交流が難しくなった。26年度からは保育園との交流を増やし、楽しいひと時を過ごされている。故テイクラフ会長によるDVD鑑賞会(昔の歌等)も好評で、長年の感謝の思いを込めて、職員全員でご冥福をお祈りさせて頂いた。日々の生活の中でも、“日頃忘れかけていることを、再び呼び戻すこと”を大切にしており、仏壇を置かれている方には、手を合わせて拝む事を忘れないよう職員が声かけしたり、長年の習慣である美容院でのカラーやパーマを継続されている。福岡で行われた孫の結婚式に参列するために、管理者が同行してお祝いする事ができた方もおられ、今後も職員全員で団結し、ご利用者の笑顔を引き出す取り組みを続けていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝唱和し職員全員で共有し、理念に沿って入居者が明るく笑顔で暮らせるように毎日のケアを行っています。	理念にある「笑顔で明るく自分らしい生活を送る為」、全員での外出や少人数での外出の機会を増やし、季節の変化を感じて頂いている。日々の生活の中でレクやクイズ(脳トレ)等も取り入れており、男性職員の仮装等も好評で、笑いの多い生活ができるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には必ず参加し(夏祭り・ウォークラリー等)顔馴染みになり、ホームの事も理解してもらえ地域よりのボランティアの方との定期的な交流も少しずつ増えている。	保育園との交流を年3~4回に増やされた。園児が歌を唄って下さったり、ご利用者の膝に座る園児もおられ、楽しいひと時を過ごされている。中学生の職場体験や住職によるパネルシアターの上映会(なむなむ会)も続けられ、公民館まつりでは習字などの作品を出展している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方々が訪問された時や行事等の時、日常的な会話の中で行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議ではホームの状況を報告し意見を頂き、サービスの向上に活かしている。	会議の時に外出支援に関するアイデアを頂いたり、災害対策の話し合いも行われ、常にホームの事を考えての意見交換が行われている。自己評価・外部評価結果を説明した時も、「こういう仕組みがあるから、質の向上があるんでしょうね」と言うお言葉を頂く事ができた。	今後も水害等(ホームが避難場所になった時を想定する等)の話し合いと共に、ご利用者の願い(グラトピアノを弾ける場所等)を叶えるための方法や、地域の方が気軽に集まる場を作るための検討も行っていく予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に参加される包括支援センターの方々と会議以外でも連絡を取り合い、協力関係を築くようにしている。	認定の更新時には職員が支所に行かれている。毎年の集団指導で、「加算に当たり、看取りの意思を確認する事」等の指導を受け、再度、ご利用者や家族に意向を確認し、記録にも追加された。地域包括の方もボランティアセンターを紹介して下さったり、ご利用者の紹介等もして下さっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員がマニュアルや研修等で正しく理解し又、職員全員が身体拘束の非について話し合い拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束は全く行っていない。主治医や専門医との連携も行われ、帰宅願望が見られる時は散歩に出かけたり、家族も面会に来て下さり、解決策の検討が行われている。“ご利用者の不安”を感じた時は、抱きしめてさしあげる事も多い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会には積極的に参加し入居者の方々の意見や人格を尊重し虐待防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されてる方はおられないが、研修には参加し包括支援センターともいつでも相談し協力していく態勢は出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居当日には詳しく説明している。又、来訪されて時には、再度話をし改訂の時にも口頭・文書にて理解納得して頂ける様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの入り口に意見箱を置いている。推進会議には入居者の方にも参加して頂き意見・要望を話せるようにしている。年に一回家族会を開き、交流を行い話を聞いている。面会に来られた時にも要望・意見を聞くようにしている。	ご利用者とゆっくり会話し、気持ちに寄り添うようにしている。面会時や家族会で、施設長や管理者、職員から声かけを行い、「頭の体操をさせてほしい」「手紙が来たらすぐに連絡してほしい」「できるだけリビングで過ごさせてほしい」等の要望を伺い、日々の生活の中に取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や通常の勤務等で時間・機会をみつけ、全体・個別に意見を聞き反映させるようにしている。	施設長と管理者は職員との会話を大切にしている。何があっても、「何とかなるでしょう」と言って下さる施設長のお人柄もあり、管理者や職員は様々な意見を伝えやすい環境が作られている。おやつ作りやパソコンが得意、レクはお任せなど、職員個々の特技を発揮して頂いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員と接する時間を作りそれぞれの良い所を伸ばし希望も持って働ける職場作りに努めている。時々、職員の親睦を兼ねて食事会を開いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの能力に応じて研修会への参加、資格所得の声掛けや機会を作っている。永年表彰、資格取得時の表彰及び手当を考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	G・H協議会の研修に参加しお互い他ホームの職員さんと意見交換をしホームの質を向上させるように努力している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にアセスメントを行いプランを立てる。入居後、生活の中で本人の状況・様子をしっかりと把握する。日頃の日常の会話の中で不安・要望を受け止め、全体会議で話し合いサービスに活かし安心してもらえる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせ・見学の段階から本人・家族とゆっくり向き合い不安・要望をしっかりと受け止め信頼関係を築くようにしてる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族にとって今何が必要なのかを状況や話の中で捉え、ホーム内にとどまらず活用できる他のサービスも含め最も適切な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にサービスを提供するのではなく、一人ひとりが出来る事(テーブル拭き等)をして頂き協力し合っている。どんな時でも感謝の言葉を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	初期の段階より家族とはいろんな事をお尋ねしたり、話し合いを行ったりしてご本人が安心して生活できるよう協力体制を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知り合いや家族が訪問しやすい環境づくりに努めている。教え子の発表会等に家族と行かれる時にはお洒落に心がけている。	馴染みの美容室に行き、食事をして来られる方や、お墓参りに行かれる方もおられる。遠方の家族に電話をかけたり、季節を忘れないように年賀状を出したり、花見にもお連れしている。お孫さんの結婚式(福岡)に参列するため、管理者も同行し、叶える事ができた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全職員は一人ひとりの性格・他の利用者の方々との関係をしっかりと見極め全員が協力し助け合って生活出来る様に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事情によりサービスが終了した場合も、出来る限り相談にのるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の話し合い、又入居後は一人ひとりとゆっくり向き合いいつもの会話や生活状況等の中で、思い・意向を把握するようにしている。又困難な場合には表情・動作からおし図られる情報を全職員で話し合い検討している。	日々の会話や活動を通して、思いの把握に努めている。意思疎通が難しい方には、以前のお仕事や昔好きだった事から思いを推察したり、家族からお話を伺っている。「元気で暮らしたい」「お墓参りに行きたい」「ご主人に会いたい」などの真の思いを知り、実現できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から入居前より話し合い、入居後はさらに今までの生活状況・経緯等を把握出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の状況・心理状態・得意なこと・苦手なこと等は、些細なことでもしっかりと記録したり申し送り等で全職員は理解している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人は日常生活の中で、家族には面会時に意見や気持ちをお尋ねし、ケアプラン会議では意見を反映したプランを話し合っているが全員が十分とはいえない面もある。	生活歴や個々の能力を把握している。リハビリの視点も強化し、廊下を歩く事や体操等と共に、洗濯物たたみやテーブル拭き、買物等も盛り込まれている。家族がホワイトボードを持ってきて下さり、脳トレを行う時に活用している。日々の日課(ニュースを書き留める等)の継続にも努めている。	家族からの意見やアイデアを更に引き出していきたいと考えている。センター方式の一部も活用して3表(日課表)を作成し、個々のケアの詳細を含めて、介護計画の説明をしていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は日誌に、ケアプランの結果・気づきはチェック表に記入し、全職員がいつでも見ることが出来、情報を共有し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々発生するニーズ・状況に応じて本人にとって最も必要で安心を得られることを優先し柔軟に対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館まつりへの作品出展、夏祭り、おくんち、ウォークラリー、町内清掃等に参加をし、地域の一員として出来る事を協力し助けを借りながら豊かな気持ちで生活を楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望のかかりつけ医に受診している。診察の時には状況を説明し、主治医より指導を受けたり、不安・気掛かりなことは相談している。又、結果は家族に報告している。	神谷医院がかかりつけ医という方が多く、毎週の往診も受けている。25年9月から神谷医院が外来専門になっているが、夜間の体調変化時はホームの看護師や院長に連絡が取れる体制ができています。家族が他科に受診介助をする時は、お手紙を持参して頂き、受診結果の共有もできています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の気付き・状況は看護師に伝え、不安なこと・心配なことはいつでも相談をしている。必要な時には看護師からも主治医に連絡をし適切な診察・治療を受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入院先の関係者と密に連絡を取り合っている。又、早期に退院出来る様働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に本人や家族にアンケートを行い、同意書を頂いている。又、状況に応じてその都度主治医を含めて話し合い希望を伺い支援に取り組んでいる。	全員の方がホームでの看取りを希望されている。24時間体制の医療連携の基、状態に応じて点滴や酸素吸入等の医療行為も行われている。ご本人と家族の不安を和らげ、安心した気持ちで最期まで過ごせるように支援している。状態が少しでも変化した時は家族に連絡し、家族も一緒に終末期の関わりをして下さっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師により内部研修を行い、全ての職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に二回、火災訓練を行っている。近所の方にも協力をお願いし全員で取り組んでいる。防災グッズも備えている。地域には声をかけているが訓練の参加にははいたっていない。	消防計画及び自然災害に対するマニュアルを作成している。ハザードマップを基に消防署への避難方法の確認が行われ、「自然災害時はホーム内にいる方が安心」と言うアドバイスも頂いた。消防設備会社の方が参加し、神谷内科と合同で訓練が行われ、近所の方にも災害時の協力を依頼している。消防署の方も毎年設備点検に来て下さり、訓練時の参加依頼もしている。災害に備えて、水やお粥、缶詰め等も準備している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者お一人おひとりを敬うことを忘れず「してやる」という気持ちを持つことなく、否定せず受け入れプライドを傷つけないようにしている。エレベータ前のトイレにカーテンを付け、安心して入れるようにした。	「やさしいことばで～。同じ目線で～。静かに語りかけましょう～」と言う標語を事務所に貼り、職員は日々確認している。上から目線にならないように注意すると共に、言葉遣いを大切にされており、職員同士で気を付けている。ご利用者の立場に立った支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話や表情から入居者の思いや希望を受け止め、それぞれの気持ちを自然に表せるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り入居者のペースを守り、一人ひとりの生活の流れを大切に希望を取り入れる支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望される時にはマニキュアや口紅等を行ったりイベントや外出時に日頃出来ないお洒落をアドバイスしたりして一人ひとりに合った支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前のお盆拭き、食後のテーブル拭きを出来る方に声掛けてしてもらいます。みんなで出来るおやつ作りを楽しめるように支援している。	朝はホームで、昼夜は下の厨房で作り、季節の料理（おでんや冷麦、クリスマスツリーなど）や、ご利用者の好物のお赤飯や煮物なども作られている。梅干し作りも行われ、ホットプレートで“どら焼”作りも楽しまれている。ミキサー食の見た目にも気を配り、少しでも自分で食べる事を大切に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、食事摂取量を記録し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前、食後の口腔ケア（イソジンうがい）夕食後、出来られる方は歯磨きをしてもらい、出来られない方に対しては介助（一部介助）の対応を行っています。夕食後は義歯を一晚消毒しています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自らトイレへ行かれない方には時間をみて声掛けをします。動きや話し方などの状況で判断したり時間を見計らって声掛け、誘導します。出来る事は自分で行ってもらい出来ないことは介助します。	排泄が自立し、布の下着の方もおられる。誘導の必要な方は耳元で声かけし、意思疎通が困難な方は、表情や仕草などで誘導を行い、失禁が減った方もおられる。夜勤は女性職員がしており、昼間も必要時は同性介助が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならない様に水分補給やバランスのとれた食事の提供、軽めの運動に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日週二日で状況、希望に応じてシャワー浴は随時行っています。季節に応じて菖蒲湯、ゆず湯を実施。	湯温などの希望に応じている。みかんの皮風呂も楽しまれ、ご利用者も「珍しいね」と喜んで下さった。男性職員が男性利用者の入浴支援をする時は、戦艦の話など男同士の会話で盛り上がっている。自分でできる所は洗って頂き、ご本人のペースで入浴できるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、本人の意思を尊重しホールだけでなく自室で過ごされる時間を大切に、ゆっくり休息でき安心されるように支援します。夜間の巡回時は睡眠を妨げないように心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理票を作成し常に確認できるようにしている。副作用と考えられる場合は(副作用については皆が見られるように資料を設置)医療機関に連絡、相談し変更がある場合は申し送り等により、確実に把握するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じて自主的に得意なこと(テーブル拭き・お盆拭き)また好きなこと(ピアノ・大正琴・裁縫)をしてもらう様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望をくみ取りなるべく対応できるようにしている。又、家族にも伝え本人の希望にそえるように支援している。又、地域の協力を得ながら、地域の行事に参加している。(年4回)	ホーム周辺の散歩を行い、近所の公園のベンチに座り、ゆっくりと過ごされている。おやつを持って花見を楽しまれたり、地域の敬老会や夏祭り、公民館まつりに行かれている。希望を聞きながら、森きらら(動物園)や海きらら(水族館)に出かけたり、ジャスコでの買物を楽しまれている。外出時は家族の協力を頂ける時もある。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こずかい程度を持参し好きな物やおやつ等の買い物が出来られるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話されている。手紙が届いた時はすぐにご本人に渡すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快感が無いように空気清浄器を設置し、季節の花を飾ったりして居心地良く過ごせるように工夫している。	お茶の葉を使ったお香が焚かれ、12月はリビングの窓から教会のイルミネーションを眺める事ができる。お風呂の順番を待つためのソファが廊下にある。ご利用者同士で団欒されている。リビングには、家族が持ってきて下さったホワイトボードがあり、ゲーム(回想法)等も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール以外でくつろげる場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人・家族と相談して、馴染みの筆筒や品物を使用してもらい、なるべく以前の環境に近くなるように工夫している。	ご本人の移動に応じて、ベッドの向きや家具の配置を工夫し、ポータブルの前にはカーテンスタンドが置かれている。仏壇を置かれている方には、拝む事を忘れないよう職員が声かけしている。入居前と同様、枕元にバックや腕時計、スタンド、ラジオ等を置かれている方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋のドアには名前を大きくはっきり書き、わかりやすくしている。特にトイレはわかりやすいように「便所」と表示している。		